

新潟大学脳研究所創立25周年記念講演会

1992（平成4）年7月25日（土）

Commemorative Lecture: Twenty-fifth Anniversary of the Brain
Research Institute, Niigata University, July 25, 1992

In 1967, twenty-five years ago, a quarter of a century in fact, the Japanese Ministry of Education, Science and Culture, approved the Brain Research Institute, Niigata University, as an independent “institute.” On July 25, 1992, the institutional staff of the Brain Research Institute and its patrons who have supported the development of the Institute since its inception joined together to commemorate the 25th anniversary and to pledge to work for the Institute’s further development. All the departments of the Institute were opened to the public, and commemorative lectures were given by Professor Shoji Tsuji, Professor Masayoshi Mishina, and Professor Emeritus Hajime Mannen, who has been closely associated with the Institute for many years. Their lectures are printed in this journal. Then followed a ceremony and a celebration.

In 1957, The Brain Research Institute of Niigata University began as a laboratory attached to the Niigata Medical College (predecessor of today’s Niigata University, School of Medicine). Its establishment was made possible by the achievements of Dr. Mizuho Nakata (the pioneer of neurosurgery), Dr. Ko Hirasawa (the neuroanatomist), and Dr. Tatsuji Ito (the neuropathologist). The institute became an independent institute in 1967 with the major purpose of studying the mechanisms of the brain and brain diseases and applying their findings to various fields.

At the commemorative ceremony staff members of the Institute pledged to further their efforts to place the Institute at the center of various research projects and facilities throughout Japan.

Key words: Brain Research Institute, study of brain and brain diseases, neuroscience
脳研究所, 脳と脳疾患の学理, ニューロサイエンス

新潟大学脳研究所創立25周年にあたって

新潟大学脳研究所が大学附置の、部局として独立した「脳研究所」に認可されて以来、この1992年で4分の1世紀、25年が過ぎます。

創立以来、この脳研究所の発展を陰に陽に支えて下さった多くの方々と一堂に会し、感謝と今後の更なる発展を祈念して、7月25日（土）に「新潟大学脳研究所創立25周年記念事業」を計画し、脳研究所の全部門公開、記念

式典、記念祝賀会等を行なうとともに、ここに記録する記念講演会を開催致しました。

新潟大学医学部の前身、新潟医科大学の頃から、新潟には優れた脳研究者がおられました。故郷が新潟市郊外の脳解剖学者、平澤 興先生、わが国における脳腫瘍病理学の開拓者、伊藤辰治先生、耳鼻科や眼科学の研究者等々であります。中でも、この脳研究所の産みの親であり、わが国で最も早く脳神経外科学を新潟に樹立された外科教室の中田瑞穂教授が退官されるのを記念して、昭

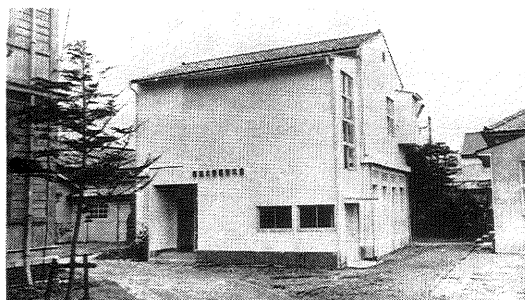


図 1 昭和31（1956）年の学内措置による自称「新潟大学脳研究室」。

和31（1956）年学内措置で旧奉安殿（戦中天皇陛下の写真が奉安してあった建物）に木造の2階をあげ、自称「新潟大学脳研究室」（図 1）が造られました。それは現在のブレインカutting室のところで、それに小さな「生理学」「形態学」「化学」の3つの研究室があり、小さいながら念願の共同研究の幕開けでした。

その時の記念講演会で、脳外科の研究に強い熱情を傾けておられた、京都大学の荒木千里教授は「今は小さいけれど、将来大きな、立派な、そして日本の誇るべき脳研究所に発展することを祈ってやまない」と、結んで下さいました。

文部省は早速翌昭和32（1957）年、日本でいち早く脳神経外科学を樹立した新潟の業績を評価し、新潟大学医学部に「脳外科研究施設」を認可しました。自称“新潟大学脳研究室”の建物がこれに当てられ、初代施設長に中田瑞穂先生が就任されました。丁度35年前でした。その後、幾つかの部門が整理され、昭和42年には国内で初めて、大学附置の、独立した「脳研究所」に昇格しました。その創立以来25年が過ぎたものであります。

この脳研究所設置の目的は、「脳および脳疾患に関する学理、およびその応用の研究」でした。正常脳に関する基礎神経科学だけでなく、ヒトの疾病に関する「臨床神経科学」並びにそれらを結ぶ「病態神経科学」の3者が、一体となって進展させることに重点がおかれ、他の医学分野との連携協力体制が重視されつづけ、今日に至っております。

現在は8つの研究部門と、日本では唯一の附属「脳疾患標本センター」をもち（図 2）、幅広い研究と多数の国際共同研究が進行しつつあります。

そのような経過の中で1992（平成4）年7月25日、文部省学術国際局長長谷川善一殿を始め、森 亘日本医学会会長、岡田善雄先生、佐野圭司先生、豊倉康夫先生、



図 2 現在平成4（1992）年における新潟大学脳研究所。左が研究棟。右2階建てが脳疾患標本センター。その前のからまつの木は図 1 のからまつそのもの。

里吉栄二郎先生、井形昭弘先生、杉田秀夫先生、萬年 徹先生、金澤一郎先生等々（順不同）全国で脳研究を先導されつつある多くの諸先達の御出席を戴き、この記念講演会は開催されたものであります。

この時の記念講演会は、私共脳研究所が1970（昭和45）年以來、全国規模で次代の脳研究をめざす教育事業として行なって参りました「新潟神経学夏期セミナー」、今年は早や第22回となりましたが、その第4日目のセミナーとして行われたものであります。ところは新潟大学有壬記念館の講堂で、そのプログラムは以下の如くでした。

1. 神経疾患の分子メカニズム
午後1時5分～1時50分
座長 宮武 正 東京医科歯科大学教授
新潟大学脳研究所神経内科学部門教授
辻 省 次 先生
2. NMDA 受容体の分子的多様性
午後1時50分～2時35分
座長 永井克孝 新潟大学脳研究所客員教授
新潟大学脳研究所神経薬理学部門教授
三 品 昌 美 先生
3. 脳と心の五千年
午後2時40分～3時40分
座長 生田房弘 新潟大学脳研究所長
東京医科歯科大学名誉教授
萬 年 甫 先生

このプログラムによってまさに歴史的な記念講演会が施行されたと申してよいと存じます。以下は夫々当日の御発表記録をもとに、各演者の先生に校正して戴いたものを記録にとどめたものであります。なお各演者の御略歴は当方で附記させて戴きました。

（編文責 生田房弘 新潟大学脳研究所長）